

アイヌ語の未来を考える

—音声資料をいかに活用していくか—



©野田サトル「ゴールデンカムイ」
(週刊ヤングジャンプ・集英社)

文化庁ではアイヌ語音声資料のデジタル化・アーカイブ作成のための調査研究事業を進めています。平成25年度からは、平取町立二風谷アイヌ文化博物館の資料を対象に、町内外の関係者と千葉大学の協力を得ながら、基礎的な整理作業と研究を行いました。この資料は、同町教育委員会が故萱野茂氏に調査員を委嘱して昭和44年に記録したもので、6名の語り手はいずれも沙流川流域に暮らした流暢なアイヌ語話者です。

本報告会では、アイヌ口承文芸の魅力や、萱野氏の調査活動を紹介するとともに、この間の成果を取りまとめてお知らせします。

申込不要
参加無料

平成27年

1月31日(土)

13:00~16:00
(開場12:30)

北海道大学

学術交流会館第一会議室



札幌市北区北8条西6丁目北海道大学

平成27年

2月1日(日)

13:00~16:00
(開場12:30)

沙流川歴史館

レクチャーホール



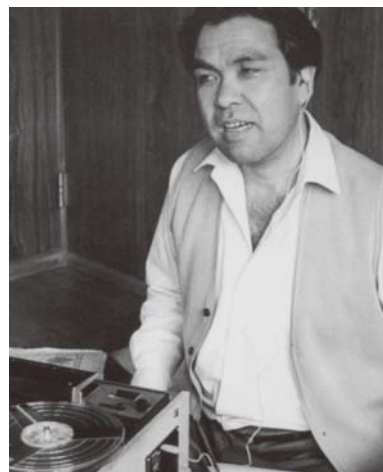
北海道沙流郡平取町字二風谷227番地2



鈴木 仁也



関根 健司



中川 裕



萱野 志朗

TIME TABLE

- ▶13:00 開会挨拶
- ▶13:05 概要説明 アイヌ語の保存・継承に係る文化庁の取組(鈴木仁也国語調査官)
- ▶13:25 報告 調査・研究の成果について(関根健司氏)
- ▶13:40 講演1 「アイヌ口承文芸と音声資料」(中川裕教授)
- ▶14:40 休憩
- ▶14:50 講演2 「沙流のアイヌ口承文芸—萱野茂による記録—」(萱野志朗氏)
- ▶15:45 質疑・応答
- ▶16:00 閉会